

## 二つの期待

一年前に大相撲の世界に入ったM・Y君が、序二段東の五枚目まで番付を上げました。中卒力士としては目を見張る活躍です。日曜日からの春場所は、更なる強敵と対戦することでしょう。

一年前、「高校に行つて新体操部に入ります」と言っていたK・Nさんが、本日の新聞に載っていました。全国高等学校新体操選抜大会に出場するC高校の新体操チームのメンバーに選ばれました。

この二人に代表されるように、昨年度の卒業生は、それぞれの立場で頑張っているようです。活躍の舞台は違っても、一人一人が打ち込むものを持ち、それに若いエネルギーを注いでいることが、送り出した者としてはうれしいものです。

本日、一〇五名の三年生が、瑞浪北中学校を巣立っていきました。中学三年間を北中で過ごした初めての生徒たちの卒業です。コロナ禍以前の意気揚々とした北中を知っている生徒たち。コロナ禍で、中止や変更を受け入れざるを得なかった生徒たち。そして、状況を冷静に理解して、自分たちの実績を積み重ねてきた生徒たち。月並みな言葉ですが、「よく頑張ってきたね」と声をかけたくなる生徒たちでした。

「いい卒業式だった。姿がすばらしかったね。特に、卒業生たちの視線がそろっていたよ。」

来賓として参加してくださった教育長が、式後に私にかけてくださった言葉です。「目は口ほどにものを言う」という言葉があるように、壇上上がった教育長に注がれた生徒たちの視線には、この北中で培ってきた自信と誇りがみなぎっていたのだと私は思います。

やりたかったことができなかつた現実、行きたかつた所へ行けなかつた現実があつても決して腐らず、日々の生活を充実させ、その中で確実に実績を残し、力をつけてきた卒業生たちのこれからの活躍に大いに期待します。

そして、もう一つ期待するものは、一年生と二年生のさらなる成長です。特に、来年度の「学校の顔」となる二年生が、どのような「リーダーとしての顔」を見せてくれるのか、大きな大きな楽しみです。このような、先輩から後輩へのバトンタッチが、学校の醍醐味だと言えますね。



今日の卒業式に在校生の姿はありませんでした。しかし、送辞を語った二年のI・D君は、在校生を代表して思いを届けました。手には原稿を持っていても彼の視線は卒業生にずっと向いたまま。卒業生に言葉とまなざしで迫りました。来年度も素敵な年になりそうな予感がしてきました。(三月九日記)